

## 「世の光として」

皆さん、おはようございます。今日は洗礼礼拝です。二人の受洗者、神の家族が与えられた喜びある日です。洗礼は、イエス・キリストを自分の救い主と信じ、これから共に生きることをみんなの前で宣言する日でもあります。今日は、私達もこれまで、そして今の自分の信仰を御言葉から振り返っていきたいと思います。

では、本日の聖書箇所をお読みします。マタイの福音書5：14－16です。

では、お読みします。

14 あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れることができません。

15 また、明かりをともして柵の下に置いたりしません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいるすべての人を照らします。

16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。

(パート1)

お読みした御言葉が書かれている、このマタイ5章は、山上の垂訓と呼ばれ、イエス様が山の上から弟子たちと、その場に集っていた大勢の群衆に教えを語られた有名な箇所です。イエス様は、はじめに八つの幸い・八つの祝福、イエス様を信じ生きる者が持つべき心構えを語られます。

今日の聖書箇所はその続きに出てくる内容で、ここでイエス様は、クリスチャンとは世の光としての召しを神様から受けている者。そして、その役割は、人たちが神様をあがめるようになるために、家にいるすべての人、町を照らす存在だと教えられました。

これは、人がクリスチャンとなる時、すべてのクリスチャンが必ず受ける絶対的召しです。神様私には世の光はとても無理そうなので、神の子だけで十分ですというように、私達が選べる召しではありません。

### ヨハネ8：12

イエスは再び人々に語られた。「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」

と言われたように、光は、イエス様を信じる者全てに与えられる“恵みのアイデンティティ”なんです。

そして、あなたがたは世の光となりなさいと言われていない点も重要です。世の光は、私

たちの努力でなろうとしてなれるものではないということです。

でも、この箇所を読むと自分の努力によらないことには励まされるのですが、自信をもって世の光として歩めているとは言えない自分がいるのはなぜでしょうか。ここを読むたびに、果たして自分は世の光として歩めているのだろうかという問いが自分に迫ってきます。いや、歩めてないときのほうが多いんじゃないか、消えているように感じることのほうが多いのはなぜでしょうか？それは、自分の中にまだ全然捨てきれていない自分を発見するからではないでしょうか？自分の人生の王座にイエス様ではなく、まだ自分が座っていたいという思いを見つけるからではないでしょうか。

### マタイ 7：21－23

21 わたしに向かって「主よ、主よ」と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。

22 その日には多くの者がわたしに言うでしょう。「主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言し、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの奇跡を行ったではありませんか。」

23 しかし、わたしはそのとき、彼らにはっきりと言います。「わたしはおまえたちを全く知らない。不法を行う者たち、わたしから離れて行け。」

イエス様は、クリスチャンにも偽物と本物がいるといわれます。22節「主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言し、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの奇跡を行ったではありませんか。」

偽物も神様を信じ、イエス様を信じます。偽物が偽物とバレたとき、主よ、主よとこれまでの自分の信仰の歩みを弁明しても、イエス様ははっきりと知らない、離れていけと言うといわれます。なぜでしょうか。

今日は読みませんが、**マタイ 19：16－22**に、永遠のいのちを得る方法をイエス様にたずねる青年が出てきます。そんな彼にイエス様は、自分の財産を売り払って貧しい人に与えたうえで、私に従ってきなさいと言いますが、それを聞いた青年は、多くの財産を持っていたけど、そのイエス様の言葉通りできそうになく、悲しみながら立ち去っていきます。彼は十戒の戒めなどもすべて守っていたと言っていますが、本物の信仰者となる道を諦めてしまいました。なぜでしょうか？

最初の主よ、主よと言った者の必死な弁明も、結局はイエス様のために一生懸命だったのではなく、自分の救いのために神様を信じていたからです。そして、次の永遠のいのちを得たかった青年も、神様を愛して戒めを守っていたのではなくて、自分のために神様を信

じていたからです。偽物の信仰の特徴、それは自己中心の信仰だと聖書はいいます。自分のために祈り、自分のために神様を礼拝する。神様のためでなく、自分のための信仰です。自分が祝福されたくて、自分の人生を良くしたくて、自分の目の前にある問題を解決したくて、自分の願いを叶えたくて、自分の夢を叶えるために。

(パート2)

### イザヤ43：7

わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造した。これを形造り、またこれを造った。

私たち人間は、本来神様の栄光のために造られました。なのに、その順序がいつのまにか逆転し、私のために、私を助けるために、私を満たすために、私の道を開くために、私を癒やしてもらうために神様はいるとなってしまうことが、本当にたくさんあります。そんな自分がちらつくので、世の光ですという御言葉を見ても自信をなくしてしまいます。

特に浪人時代の私を振り返ると、中学のとき心から神様を自分の神様と告白し信じた喜びを忘れて、自分のために神様を信じていたように思います。そのときも毎週教会には来ていましたが、それは、神様～と神様にすぎるとよりも、一生懸命礼拝して、祈って、奉仕したら、神様が私の祈りを聞いて道を開いてくださるんじゃないかというずるい思いをもっていました。私のしたいことを通して神様のために生きていくので道を開いてくださいとずうずうしく祈っていました。

これは、他の宗教、ご利益宗教、困ったときの神頼みと何も変わりません。キリスト教と他の宗教の違いはなんですかと誰かに聞かれたら、みなさんはなんと答えますか？他の宗教もそれぞれの神を呼び、一生懸命その教えを守ります。チベット仏教なんて、礼拝を捧げる場所までの移動を土下座しながら進みます。キリスト教と他の宗教の違いはなんでしょう？それは、他の宗教は“自分の思い”を叶えるためにそうします。でも、キリスト教は、自分が十字架の福音によって新しくされ、イザヤ43：7にあるように、神様の栄光のために生きる場所です。

そして、祝福の基準も違います。世は私たちに、より上の学校、大学に行くことが祝福、良い会社に就職することが祝福、カッコいいかわいい人と付き合い結婚することが祝福、健康なことが祝福などと言ってきます。私も昔はこれらを理想とし、目標とし、頑張ってきました。そして、その理想・目標に届かない自分に挫折し、本当の神様を信じてるの

に、全然祝福されていないと感じてました。そして、生きることに疲れを感じていました。

この世の基準だと、より上の大学に行けなかった人は祝福されていないことになりま  
す。病気になったら祝福されていないことに、呪われていることになってしまいます。自  
己中心な信仰を持っていると、信じているのは結局神様ではなく、自分なので、その自分  
に挫折し、光となるどころか闇となってしまいます。

### ヨハネ 9：1－3

- 1 さて、イエスは通りすがりに、生まれたときから目の見えない人をご覧になった。
- 2 弟子たちはイエスに尋ねた。「先生。この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか。」
- 3 イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです。」

この当ても健康が祝福という考え方だったようです。でもイエス様は弟子たちの質問に対して、病気は罪の呪いではなく、神のわざが現れるためだといわれました。聖書はこの世の祝福の基準とは違うんですね。

聖書は、良い大学に行ってもイエス様が祝福そのもので、それ以外の大学に行ってもイエス様が祝福そのもの。健康でもイエス様が祝福で、病気を患っていてもイエス様が祝福だといえます。

(パート3)

では、どうしてそう言えるのでしょうか？聖書は、人間が自分のために生き、自分しか知らないのを“罪”と呼びます。私たちは、罪と聞くと、十戒や世の中の法律を思い浮かべてしまいます。盗み、姦淫、殺人、嘘などをです。なので小学生のときの私も“自分は罪人”という言葉も聞いて、いや、毎週教会に来てるし、礼拝捧げてるし、聖書読んでるしと、あまり自分を罪人と心から思えませんでした。でも、この盗みや姦淫や殺人などは罪の実出会って、罪の本質は、自分のために生き、自分しか知らないことをさします。

### 創世記 3：4－6

- 4 すると、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。」
- 5 それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者と

なることを、神は知っているのです。」

6そこで、女が見ると、その木は食べるのに良さそうで、目に慕わしく、またその木は賢くしてくれそうで好ましかった。それで、女はその実を取って食べ、ともにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

ここには、蛇の言うことに従って善悪の知識の木の実をエバとアダムが食べてしまい、人間に初めて罪が入る瞬間が書かれています。蛇は、エバにそれを食べると、神のようになると言ってそそのかしました。それでも、エバに神のようになりたいという思いがなければ、興味も示さず、食べなかったと思います。でも、その蛇の言葉を聞いたエバの心には、神のようになりたいという思いがあったんです。そして食べてしまいます。

その結果、すべての人間が、神様よりも自分のために生きるという罪をもって生まれるようになりました。そして、この罪をもった人間の生きる社会は、下がる構造ではなく、上がっていく構造、人が神となる構造、勉強もビジネスもなんでもトップを好み、高いところに向かっていく激しく厳しい競争社会となってしまいました。

そんな、自分のために生き、自分しか知らない私たちにとって、どんなときもイエス様が祝福・良い知らせである理由は、“イエス様が王”となってくださるからです。自分自身が王なのが罪で、この罪によって私たち人間は死に、また滅ぶものでした。そんな私たちに福音は、王は私たちじゃないと教えてくれます。私たちが王なんじゃなくて、本当の王はイエス様なんだという事実を教えてくれます。だから祝福であり、良い知らせなんです。

キリスト教とは、イエス様を信じるということは、恐ろしいほど自分しか知らない私、自分のために生き、自分の人生の王、主人は自分で、そうあり続けるために神様を利用する私が、自分の死と出会うということです。

## ガラテヤ2：20

もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。

## IIコリント5：15

キリストはすべての人のために死なれました。それは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためです。

キリスト教は、自分の死に出会い、向き合うもの。もはや私が生きるのではなく、私の夢

が生きるのではなく、私の願望が生きるのではなく、私の罪のために死んでくださり、よみがえってくださった方、キリストのために、唯一私のうちにいるキリストが生きているが、イエス様を信じることです。

そして、私たちが、この罪と戦い、イエス様を心から信じ、世の光となるには、やっぱり御言葉がなくてはなりません。

### ピリピ2：13－16

13 神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。

14 すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。

15 それは、あなたがたが、避難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代のただ中であって傷のない神の子どもとなり、

16 いのちのことばをしっかりと握り、彼らの間で世の光として輝くためです。

16節をもう一度見てください。いのちのことばをしっかりと握り、彼らの間で世の光として輝くため。世の光としての働きには、いのちのことば、御言葉が必要なんです。

### また、マタイの福音書4：17

この時からイエスは宣教を開始し、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言われた。

次に必要なのが悔い改めです。この言葉は、イエス様が宣教の働きの一番最初に言われた言葉です。イエス様の言う悔い改めとは、旧約の時代のように、罪を犯したとき事にその代価となるいけにえをささげるように、罪を赦してくださいとただ祈ることではなく、車が180度Uターンし、進んでた道とは逆の道に戻るように、自分への歩みを神様への歩みへと立ち返ることをいいます。自分が自分の人生の王として歩んでいたのを、御言葉を聞いて、イエス様を王と迎え、これからはイエス様のために生きるという決断です。

### ローマ1：17

福音には神の義が啓示されていて、信仰に始まり信仰に進ませるからです。

ここに書かれているように、福音には力があります。そして、私たちに助けてとして与えられる聖霊なる神様が、私たちに悔い改めへと、そして神様へと導く力、闇から光へと、

罪人から神の子へと私たちを導き入れてくれます。

今日は、御言葉から、私達自身は、世の光のアイデンティティをしっかりと持っているか、自覚があるか、そして、私はその役割を果たせているかを一緒に確認しました。

私たちが今日からの歩みにおいて、自分の罪と真っ向勝負し、御言葉によって悔い改め、イエスを王として迎える者と変えられていくよう、世の光の召しを全うできるよう切に願い祈ります。